『へおいでやす。』
『ハイ。ハイ。オヽオ、歌舞の菩薩の色競べとは眞にこれやなア。ても艶やかな事ぢや、何人御在る何、二十人か。伊八。二十兩とり替えとくれ。』
『しよ。承知いたしました。……ヘツヘツヘツヘ。』
『ア又笑ふて來よつた。今度は何程や。』
『二十兩。』
『大丈夫かいナ。』
『心配しなはんな。』
『持つて往き。』
『ヘエ旦那さん。お待ち遠様で……。』
『や憚りぢや。さ失禮乍ら各々是れ一つ宛。此他には……。』
『幇間衆が居られますので……。』
『這入つて貰ひましよ。』
『幇間衆お通り……。』バタ〳〵〳〵〳〵。
『ウヘーツ。』

『ウヘーツ。』
『おゝこりや何ぢや〳〵。そ、左ふ丁寧にお叩儀をしられると困る。田舍老爺ぢや。どふぞ心易ふしとくなされ。何人御在る。ウム三十人か。伊八。三十兩とり替とくれ。』
『アヽ左様で。……ヘツヘツヘツヘ。』
『おい未だかいナ。何程要るね。』
『三十兩だすと。』
『だん〳〵口が大きなるがナ。まア持つて往きなはれ。あとはモウあかんで。宜えか。』
『宜しおます。……ヘエ旦那さん。』
『オヽ御苦勞々々々。さア尠いが一つ宛。そこで私しに氣嫌取りは要らんで。何を見せて貰ふても解りやせん。皆が好きな物を取つて遠慮なく勝手に遊んどくなされ。夫れを見て樂しみますぢや。……オヽ伊八。氣が附かなんだ勘忍しとくれや。他の衆には皆お土産上げて、肝腎えらい目さしたお前を忘れてた。他にも奉公人衆も有るやろが、皆で何人御在る。』
『上下四十七人居りますので。』
『ウム。五十兩とり替えとくれ。』
『アヽ左様で、ヘエ……ヘツヘツヘツヘ。』